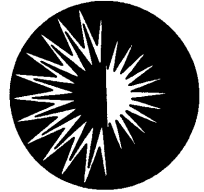




# 技術開発ニュース



## 研究紹介

- 新幹線負荷による電圧変動対策…………… 2  
     <ローカル系統の電圧変動対策>
- 送電用鉄塔高上げ工法の開発…………… 3  
     <既設鉄塔高上げの効率化>
- 低損失電線の開発…………… 4  
     <送電線の電力損失低減>
- 光ファイバ架空地線の伝送試験…………… 5  
     <高信頼度光伝送路の開発>
- 放射性廃棄物の  
     プラスチック固化システムの開発…………… 6  
     <放射性廃棄物の減容対策>
- 電子計算機の運用管理の機械化…………… 7  
     <電子計算機の管理業務の省力化>
- ボイラ起動時の騒音低減…………… 8  
     <火力発電所の騒音対策>

限りある資源を大切に

- ステンレスシースケーブルの基礎研究…………… 9  
     <大容量ケーブルのシース損失低減>
- バグフィルタの集じん性能特性……………10  
     <火力発電所ボイラ高性能集じん技術>
- 石炭灰の  
     人工軽量骨材製造プロセスの開発……………11  
     <石炭灰の有効利用>
- カーテンウォール取水口の  
     効率的な取水特性……………12  
     <火力発電所取水口の経済設計>

## 技術解説

- 襲雷警報システムの広域運用……………13

## 設備紹介

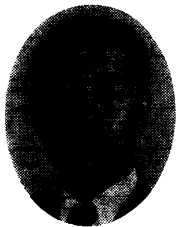
- 示差熱天秤の活用状況……………14

## 内外ニュース

- 新型電気調り器類の効率比較……………15

## 発想の転換を

常務取締役 長 澤 和 夫



1年近く前であったか、或る所で講演を聞いた中に、経済界がここ2、3年不況にあえいでいる中で、一部上場1,500社程の内、数百の企業が史上空前の利益をあげているという話があった。勿論軽薄短小の世の中、半導体、コンピューターなどの業種は好調であろうが、その他の業界でも商品に新しい付加価値をつけて、或は時代を先取りした新しい商品の開発によって、売り上げを増やしている所が多いとのことであった。

残念ながら我々の商品である電気には、信頼度以外の付加価値のつけようもなく、又商品の転換、多様化も出来ない。しかし考え方によれば電気の新しい使い道、つまり安全、便利、清潔、コントロールの容易性という大きな特性を生かした使い道が、新しい発想からまだまだ生まれてくるのではなからうか。

我国ももはや量に依存した経済成長は期待出来ず、専ら技術革新による質に依存した成長に向かわざるを得ない。10年前のいわゆる石油ショックで時代はすっかり様変わりしたが、その第一次石油ショックももう一昔前となった。今やまたまた時代は変わりつゝある。技術研究も十年一日の如く進めるものもあるが、時代の要請に応じた新しいテーマ、方針の転換などを積極的に進めてゆかなければならないものも多い。

発想の転換ということがいわれてから久しいが、実際にどれだけなされているであろうか。過去の経緯習慣にとらわれていることはないだろうか。或る目的の研究を追求する考え方や手段を全く変えて新しい見方で進めれば、思いがけない打開の道が開かれることもある。意外な所どころがっているヒントに気付くかどうか成否の分かれ道となる。これは何も研究に限ったことではない。合理化にせよ、コスト低減にせよ、我々の業務すべてに云えることであろう。考える輩である人間の特性を生かして、大いに奇抜ともいえる発想を出してもらいたい。